

Tsuru: My First Impressions

2004年6月

Tsuru-my first impression

[都留の印象]

田舎ということは高校の先生に聞いていたがこま
で田舎だとは思っても見なかった。正直驚いたという一
言に尽きる。一般的に若者が遊ぶ場所はなくほとんどが
スーパーや飲食店で後はアパートなどの下宿場所で埋
め尽くされていた。道は細く入り組んでいた最初はとて
もここで4年間も過ごせるのかと思ったが今は結構楽
しんでるってか有意義にすごしている。もともと都会よ
りも田舎のほうが好きな自分なので楽しく過ごせてい
るんだと思う。都留はとてもゆっくり時間が流れていて
外をみても急いでる人を見かけることはほとんど
なく一人一人が自由に生活している感じがする。そして
山に囲まれ都会から離れているので都留という世界が
形成されておりニュースなどでは人と人の争いなどが
常に報道されているが都留では争いなどはなく誰もが
気持ちにゆとりを持っている気がする。一言で都留に対
してのイメージを言えば外界から離れ時間がゆったり
と流れる中で人と人が打ち解けれるとてもアットホ
ームな空間。というのが自分の都留にたいしてのイメ
ージです。

My First Impression of Tsuru

初めて都留に来たときに思ったのが、すごい田舎に
来てしまったということだ。そのイメージは今も強く残
っている。自分の出身地である福島県いわき市よりも、
発展してない街があることに驚いた。あと、大学生が多い
ということにも驚いた。歩いていけば必ず文大生に会う。
おかパーで買い物をしていても必ず文大生に会う。狭い
街なので、いつも誰かに見られている気がする。だから、
悪いことはできないと思った。都留はガス代は、すこぶ
る高いし、富士急行線も高い。しかし、なぜか水道代は
安い。というより、ガス代を払わなくて良い。おかしい
と思うことや、不便だと思うことがたくさんあるが、良
いところもある。友達が近くにいることが、一番良いと
ころだと思う。すぐに会いにいけるし、困ったときは助
けてくれる。今までの生活からは考えられない生活を送
っているが、これから4年間、楽しく過ごせそうだ。

都留の第一印象

初めて都留に来たときの印象は…寒かった。広島では
三月末には雪はほとんど降らないので、心の中で「あり

えな一い」と叫びながら下宿先を探したのである。(兄
貴はその時ジャージにサンダルという格好だったので
「寒い寒い」と連呼していた。アホである。)

何とか暮らし始めて気づいたことは、水がうまい。自
然が多い。放送大学が見られる。次いで不便な点は、買
い物をする場所が限られている。遊ぶところが少ない。
富士急行線の料金が安い。そして、特に印象に残ってい
るのは、道路！！(文大通り)。富士山ろくなため微妙
に傾いているから、自転車で岡島へ行くときは楽だけど、
帰りは立ち漕ぎで帰らにやならん。ばりたいぎい。ほん
で道路は直線で長いから、車のスピードが速い。夜中に
酔っ払って白線を踏み越して道路に出たら隣かれそう
…。こわやこわや、夜道には気をつけよう。以上、都留
の第一印象でした。

Tsuru-my first impression

下宿することをあきらめ、東京から通うことを決め、
初めて都留、谷村町駅に着いた時、それほど都留に対し
て驚きはなかった。高校の先生には「東京からあつち
に行ったらショックを受けるかもしれない」と言われてい
たのである程度は覚悟していた。コンビニに行くには歩
いて何十分、スーパーまでは何十分、バスも走っていな
い、畑仕事ばかりしている人が多いなどなど、勝手にイ
メージしていた。でも谷村から大学に向かう途中にコン
ビニ、スーパー、それに変な形のモス、パチンコ屋、本
屋、レンタルショップ、飲み屋、色々あった。「なんだ、
意外にお店はそろっているぞ、人も少ないし、東京のよ
うに色々なものがそろいすぎていて、人が多すぎると
ころよりも落ち着いていていいじゃないかな」。通うこと
を決めてから見るのと生活することを決めてから見る
のでは大きな違いがあるだろうが私の都留の街に対す
る第一印象はこんな感じであった。

(次は都留に通い始めて気づいたことを書きます。)

4月7日の入学式から二週間は東京からの二時間の通
学時間は毎日微妙に変わる山の景色などを見ながら気
分をリフレッシュさせ谷村に着くと、東京の川では考え
られないようなきれいな水の流れや山に囲まれた場所
を楽しみながら大学へ通っていた。東京の川はほとんど
底は見えないし、流れているのかさえわからない川もあ
る。しかし地元でのアルバイトを本格的に再開させ授業
を受けていくと思っていた以上に不便さを感じるよう
になった。通学に関することだけなのだがバス、電車は

通っていても本数が少なすぎて一本乗り過ごすとは次は一時間後といった感じではあるが利用しにくいのだ。それに富士急は恐ろしいほどに料金が高く定期券も学割はほとんどきかないようなものであり、しかも鈍行ということで欠点が多い。そんな都留にもいいところはある。通い始めても暮らし始めても気づくこと事かもしれないが、文大生が地元の人たちと協力して都留という地域をつくり上げているということだ。子どもたちとの朝のラジオ体操、ある公園を地域の人たちと協力し合い自分たちで理想のイメージに完成させるために努力を続けていること。また social 菜園 s という部は大学近くに畑を作り野菜を作っている。都会の大学では考えにくい活動である。これらは都留という街だから、学生のほとんどが都留の街で生活しているからこそできる特権ではないだろうか。ひょっとしたら卒業生の中にはこのまま都留で生活したいというそんな声も聞こえてきそうである。

Tsuru-my first impression

私は2歳の時にこの都留に引っ越してきて、都留には16年間住んでいることになる。都留に対する第一印象は、2歳の時のものだから覚えていないけれど、今まで住んでいて思ったことはある。まず一つは東京が近くせにあまり栄えていないということ。これでも昔よりは、お店とかができて良くなった方だと思うけど、まだまだだと思う。都留市全体に活気があまり見えないと思う。せめて、大学の近くには娯楽施設を増やして欲しい。二つ目は、水がおいしいということ。東京の水と比べるとかなりおいしいと思う。他の所の水はどうか知らないけど。三つ目はなにげに治安が悪いということ。谷村駅の近くの道「お茶壺道中」には昼間でも不審者が出ることもある。それに、車上荒らしの話も多々聞いたりする。四つ目は田舎だからということもあるかもしれないけど、お年寄りと直接接する機会がたくさんあるということ。市のほうで、お年よりと接することのできるイベントを企画してくれて、そのイベントに参加すれば、お年寄りとお年寄りが親しくなれるということが結構ある。最後の一つは、気候の差が激しいということ。夏になればとても暑いし、冬になればかなり寒い。春や秋でも、毎日の気候の変動が激しく、体長を崩す人がありがちである。

「私の都留に対するイメージ」

私が初めて都留に来て思ったことは、「何にもないところだなあ」だった。本当にこんなところに大学があるのかとさえ疑ってしまった。しかし、一人暮らしを始め、いろいろなところを散策してみて思ったことがある。それは、大学生がキャンパスライフを送るのに必要な施設が最低限にコンパクトにまとまっているという気がした。(あくまで最低限だが。。) 都留には美味しくて安い飲食店が多い。問題は服屋が少ないことだと思った。ま

た、都心の大学と違い、学生がほとんど同じ地域に住んでいるので、夜もみんなでワイワイできるのが良い☆と思った。

Tsuru-my first impression

1. 都留ってこんなところ… 高校の担任による説明

浪人するか、それとも都留に入学するかで、迷っていた私に担任をはじめ多くの先生がたが、都留に行く事をすすめた。担任曰く、文系だけで成り立っている大学は珍しく、伝統もあるし、教員になるには良い環境の大学だ、ということだった。

2. つ、TSUTAYA がない…

高校の担任からは、“都留は伊集院（私の高校の所在地）に毛が生えたようなところ”と聞いていたため、まあまあ都会なのだろうと、少し期待していたのだが、都留市駅に着いてみると、私は我が目を疑いたくなった。駅前に大きなデパートがあるわけでもなく、バスがひっきりなしに来るでもなく、どちらかというと、ガラんとした寂しい印象を受けた。おまけに、富士山も全く見えなかった。大学の周りは、飲食店こそたくさんあるが、その他は何もなく、“これは、もしかすると伊集院より田舎ではなかろうか…”とおもった、実際そうだったのだが…。しかし、何よりも驚いたのは、学生の街にもかかわらず、TSUTAYA がないことだった。

3. 地域密着型大学？

オリエンテーションや授業等で、先生がたや先輩がたが、口々に“都留は良いところ”とおっしゃっているのが、はじめのうちは、理解できなかった。どちらかといえば、不便なところだと思うし、欠点だけが妙に目に付いていたからだ。しかし、二ヶ月過ごしてみると、だんだんと都留のいい点にも目がいくようになった。特に、興味をもったのが、地域に密着した活動が目立つという点だった。大学が単独で、どうこうするのではなく、都留市民のかたがたと協力して活動を進めている点は、非常に興味深いことであるし、これからの大学生活に期待を抱かせるのに十分なものである。

～とはいうものの、都留の全てを知りえたわけでもなく、まだまだ行動範囲も狭い。社会調査の授業や普段の生活を通して、もっと都留について学び、都留を好きになりたい。～

Tsuru-my-first-impression

1, 4月当初の都留の印象

- ・田舎
- ・周りを山に囲まれている
- ・若者向けの店が少ない
- ・都会（東京など）への交通の便が悪い
- ・空気が澄んでいる
- ・他の町から孤立している
- ・面白そうところ（名所など）無さそう

- ・水がきれい
- ・富士急ハイランドが近い

当時の私の心境

- ・早く帰りたい
- ・都留の下見をしてからもっと慎重に大学選びをすればよかった

2, 2ヶ月経過した現在の都留の印象

- ・コンビニ、飲食店が多い
- ・なにか面白そうなどころもあるかも
- ・CD ショップがない
- ・孤立気味な土地柄の分人間関係が密接
- ・栄えているところとそうでないところがはっきりしている
- ・周りの山々が地元の景色と似ていて落ち着く

現在の私の心境

- ・都留もなかなか居心地がいい
- ・なにか乗り物がないと移動に不便
- ・地元に戻りたくない

結論: 私の都留への印象は都留で生活を送れば送るほど好印象になってゆくと思う。だが、それは都留という町を知ることによることからののか、ただ単に大学生活に慣れてきたことによるものなのかははっきりしない。1つ言えることは、私は都留という町を外観だけで田舎で何もないんだという偏った認識をしてしまっていたということである。これからもっと都留に関して新たな発見をするたびに都留の魅力に取りつかれる……かもしれない。

Tsuru-my first impress 街に対する第一印象

都留は山の隙間に、くしゃっと小さな町があるなあという感じでした。道が狭いことにもびっくりしました。歩道もただ白線がひいてあるだけなので、よそみをしてフラフラしてたら絶対にひかれると肝に銘じました。あと雲が近いとも思いました。それと犬がおとなしいとも思いました。それから私の地元ではお昼の12時ちょっと前に「ぶおー」としかサイレンが鳴りませんが、都留では7時と12時と5時か6時に鳴るので少し便利に感じます。

都留ふあーすといんぶれっしょん

僕が初めて都留に来たときの印象は、いや感想というべきかも知れないが、帰ってえだった。僕の出身の秋田も田舎だったが、それ以上の田舎だったからだ。もっと綺麗なキャンパスライフを想像していたのに、なんだこのぎたねえ町はと思った。ドラマやテレビで見るものとははるかに違っていた。学校案内の写真は緑豊かな静かな町の学校という感じだったがそれとも違っていた。騙された。でも、今ではそんな都留が大好きです。

私が初めて都留に来たのは、今年の11月…だったと思う。大月から富士急行線に乗って、谷村町駅に降りた時思った。一やっぱり山梨って…田舎なんだ!! (←私の高校には山梨から通ってくる子も多く、常に静岡県民は山梨県民を見下していた)

下見にも来ず都留に来たので、もちろん大学がどこにあるなんて知らない。とりあえず、親子で来ている人を探し、その親子の後についていくことにした。谷村駅の先にある十字路を右に曲がり、川沿いをずっと歩いて行った。柵に書いてある「お茶壺道中」という文字に、何だよそれ、と突っ込んでみたり、田舎にも夢庵があることに感動したり、受験当日にも関わらず、大学に着くまで(着いてからも?) 私は都留ウオッチングに集中していた。しかし結局(というより、やはり)、その日は「やっぱり山梨は田舎だ、都留は田舎だ」というマイナスイメージだけが増して終わった。しいて言えば、2軒セブンイレブンがあった(私たちの間ではデイリー=山梨=田舎というイメージがある)ことと、学校が国立大より設備が整っていたことが良かったのかなと思う。

しかし、都留で生活するようになって考え方が変わった。都留に住むことで、都留の良い面も見ることができるようになった。もちろん、見たい映画が見れないー!とか、聞きたいCDが置いてない~!とか図書館の資料が使えない!!などなど、住んでみて生じる不満、問題もまだまだある(そしてこれからは生じる!)が、ここに住んでいる人は(学生さんも含め)、優しい人が多いし、一番は驚くほど自然が残っているということだ。ムササビなんて見る機会ないだろうし、水もきれいだし、近くに滝もある。また、実は城下町で歴史が古かったり、リニアも走っていたり、と探せば探すほど、様々な面が見えてくる。都会の便利さと比べたら、都留は本当にダメな(笑)場所なのかもしれないけど、都会にはないもの、都留には都留の良さがある。都留を使いこなすというか、都留での生活をよりよくするのは自分次第なんだと思った。自分にしか出来ない、工夫された都留ライフを送れるように努力したいと思った。

あ、あと都留にきて思ったことは、(大型)100円ショップが大学前にできれば、絶対儲かると思った(笑)。

私は都留で暮らし始めたとき、都留はとてものどかで落ち着く雰囲気があると印象を受けた。では、なぜ私はそのような印象を受けたのだろうか。

まず第1に、緑が多いことが関係していると思う。都会に比べ、都留には山や畑がたくさんある。さらに、この緑の多い環境が私の実家と似ていることも、私が落ち着く要因であると考えられる。しかし、私が大学に来て新しく知り合った人の中には都留が田舎で不便だという人もいる。確かに都会と比べると店が少なく、また緑や畑も多く田舎で不便であると思う人もいるだろう。け

れども、都会には都会の不都合な点がある。私と同じ年で東京に一人暮らしをしている知り合いは、毎晩パトカーや消防車のサイレンの音で、引越し当時は眠れない夜があったという。

こうした事実からも、私はこの都留が好きである。今日生活をしていて食品に困ったこともないし、何よりとても落ち着けるのだ。私はまだ都留について詳しくない。これから4年間都留で生活をしていく中で、様々なことを学ぶだろう。この都留で充実した大学生活を送りたいと思う。

- ・まわりが山に囲まれている。
- ・虫が多い。
- ・蜘蛛がやけに大きい。
- ・蚊もやけに大きい。
- ・歩道が狭い。
- ・なんとなく坂道が多い。
- ・飲食店がたくさんある。
- ・普段の買い物にはさほど困らないが、「あっ！そういえばアレがない」的なときにそれを扱う店がない。
- ・往復10分近くかかるゴミ捨て場にビックリ。
- ・プラスチックが燃えるゴミ扱いなことに驚いた。
- ・「うぐいすホール」は不便な所にある気がした。

都留に初めてきたとき僕はとても後悔しました。都留市からは富士山が見えなかったのです。僕はてっきり山梨県にあるのだから富士山は毎日拝めるものばかり思っていました。ああ…霊峰不土を拝むことはできない、できないのです。この前晴れていれば富士山が見えるらしい勝山城跡にいきました。しかし猿にあえただけで富士山はみえませんでした…。嫌なトコロ 道路が狭い、虫が多い、店がない(面白い)、ユニットバス、隣の住民がウルサイ、時給が安い、坂が多い、大学生が多い、部屋に空気がコモル、店の閉店時間が早い、買い物に出ると誰かしらにあってしまう、好いトコロ ムササビ、自然が豊富、全国津々浦々の人とお知り合いになれる、結構いい寺社仏閣、滝、家賃が安い、水の味がいい、

私は都留の街は、大学の街という様に言われてはいるが、学生に対して冷たいと思う。マナーが悪い学生や、常識を弁えない生活をしている学生が一部いることも理由にある。しかし、文科大生だからという冷たい目もローカルピーポーの中に潜在していると思う。何となく居心地が悪い。都留の人は事務的な感じで人情が感じられない。極めて期待はずれだ。融通が利かない人が多い。だから、私は、地元のありがたみを痛切に感じている。

都留が私の第二の故郷になる日はまだまだ遠い日の事だ。私は、誠意を以て都留の人たちに接していこうと思う。 Never say can not

私が初めて都留の土を踏んだのは、私も初々しい女学生だった高校三年の夏も本番に差し掛かる七月下旬の学校説明会。まだ見ぬ都留文科大学に胸膨らませ意気揚々とこの地に降り立った私は目の前に広がる風景に己が目を疑った、緑豊かで(緑しかない)閑静な(騒ぐ事が無い)都留のあまりの田舎っぷりに愕然としたのだ。と言うのは真つ赤な嘘で。ただ「ま、こんなもんだろ」と思った。

私の実家がある山梨県増穂町も都留に負けない田舎なのだ。だから田舎に対する耐性は出来ていたし同じ県内にあるのである程度の予想はしていた(ここまでの田舎だとは思わなかったが)と言うか都留が都会だと思っていた人の気が知れない。

だってあなた山梨ですよ？確かに東京の近くだけど県庁所在地の甲府でさえ結構な田舎なのに、こんな所が都会な訳無いじゃん。普通に考えて田舎と言う結論に行き着くと思うのだけどなあ..

都留に暮らして早一ヶ月が過ぎた今私の都留に対する印象は変化していない。「ま、こんなもんだろ」相変わらずそう思っている。特に好悪の感情は無い。だがこれからどう印象が変化していくかは分からない。とてもこの都留が好きになるかもしれないし嫌いになるかもしれない。こんなはっきりとしない私だが「出来ればこの町の良い所を発見していきたい」そう——思っている。

都留の街に対するイメージ 文句しか言っていない気がする。都留の人ごめんさい。

正直言って言葉がなかった。たしか初めて都留に来たときその日は雨で初めて降り立ったのは夜の谷村駅だったか。ここで四年間生活するのかなと思うと急に脱力というか現実逃避というか、一度過去にゆっくりと意識を手放しかけたことがあったがその一歩手前によく似た感覚を覚えとりあえず母と数秒黙る。その数日前に私立の入学金返してもらうために神戸市へ行ったのがまた脱力感に拍車をかけたような気がする。都留市(三万二千)も市だけれど…神戸(百万以上)も市なんだよなあ…と多分その数秒間考えていたのはそれだ。その後夜コンビニへ菓子を買いに行きビジネスホテル都留(だっけ?)で二時間百円テレビを発見してある意味感動を覚える。学生の町らしく食べ物屋が多いとか。道が狭いくせに交通量が半端じゃないとか。恐らくもう土地がないのだろう。庭がない家が多い。あっても狭い。家の型も三十年程前な気がする。その時代の映画を撮るには調度いいかもしれない。昔からの店が多く残っている

のは東京が中途半端な位置にあるからだと思う。大きな百貨店を作ろうかどうか迷う位置にあり最近地方に見られがちな現象がまだ起きていないのだろう。ああでも一番驚いたのは引越して岡島へ買い物に行った時だったか（第一印象じゃないか）「なんで海豚売ってるんだ？」なんかこれにすべてが集約されている気がする。

最初都留に来たときのどかなところでいい所だと思った。僕はひろびろとしてあまり人のことを気にしなくてもいい田舎にあこがれていたからいい場所にこれだけ良かったと感じた。しかしそう思ったのも初めの数日間だけだった。入学式やらオリエンテーションなどの小忙しいイベントが終わって一段落つき授業が始まるまでの間を暇でもてあましていて違う事を考えだした。暇だからゲームをしようと思っても近くにゲーム屋がないし、それではとって本やCD屋も品数が少なくてがっかりした。自分が思ったような店がなくて不便だと感じ始めた。そしてますます都留がいやになりはじめた。

都留文科大学に入学が決定して、高校の先生に言われたこと。それは「何もないけど、良いところ」です。私は半信半疑で笑い「本当ですか!？」と返していました。だって都留“市”ですよ。何もないわけじゃないですかっ！そう思いながら、いざ都留市へ…。そして初めて訪れた日のあの一言・・・「うわっ！田舎っ！！」本当に何もなくて、山々が迫っていて、想像していた街よりはるかに田舎だと思ったくらいです。確かに私の出身地岩手県〇〇村はそれこそ“村”ですから、田舎も田舎。ド田舎ですよ。バスも1日に何本程度、電車は通っていないし、目立つ建物もとくになく、信号機は車用一ヶ所だけ、見渡す限り山・山・山です。しかし都留市は“市”ってくらいですから、しかも関東地方ですから、さぞかし大きな街なんだろうな…とってしまった私は反省しました。私がそう思ったくらいですから、大きい街からきた方々はどう思われたのか気になります。山梨県と岩手県では県面積が違うので、山梨県の1つ1つの面積も“市”とはいえ、岩手県の市町村の1つ1つに比べたら、狭いことは分かります。しかしまたそこに、私は違和感を覚えませんでした。自然に囲まれているということは、地元の雰囲気似ているのでカルチャーショックなるものはありませんでした。むしろ東京のようにあまりにも都会すぎると、逆に窮屈で私は生活していけないような気がしました。かえって都留市ぐらいの街が、合っているのではないかと思います。（ま…育った場所が場所ですからね。）田舎、田舎とは言っていますが、それでもやっぱり大学のある街なんだなと思います。飲食店が多いし、学生向きの〇〇など、何かと大学生である私たちを意識してくれているように思います。山＝

田舎ではないということです（笑）都留市は由緒ある城下町のように、歴史が好きな私にとっては興味をそそられる街だと思います。これからの4年間、いずれにせよ住まなければいけないのだから、自分の目で都留市という街を見つめていきたいなと思います。 —END—

都留のまだ他の所より活気があるのは文大周辺である。都留市駅、谷村町駅の周辺の驚くくらいさびれた町。シャッターは閉まっているし、いつも曇りの目のように空気がよどんでいる。都留文に進学が決まったとき「東京に近い！きっと都会なんだろうなあ（私は自分の出身地より田舎な所はないと思っていた）」とすばらしい都会でのキャンパスライフを想像していた。が！！しかし・・・高速を下りたところは、山ばかりの都留。周りを見渡せど山・やま・ヤマ！！「地元より田舎に来ちゃったああ。」と落胆した。でも落胆しても何も始まらないから前向きに都留で暮らしていこうと決心し、まずは都留の良いところを探した。

(1) 桜がきれいということも含め、春夏秋冬の移り変わりが目に見えてわかる、お金では手に入らない美しさを感じられる。

(2) なんといっても富士山が近いこと。文大の近くからは見えないが赤坂(Jマート付近)、反対に富士吉田方面に行くとも見える日本一の山は何回見ても自分に力がでてくるような感じにさせる。また、冬の良く晴れた満月の夜の富士山は白く浮かび上がりとても神秘的だ。

(3) 谷村町駅の近くにおいしくて、すっこいボリュームの定食屋さんがあること。しかも家庭的であったかいい感じもいい。

もちろん交通の便が悪いし、大きなビルもないがそれ以上に豊かな自然があり落ち着ける場所だと思う。私にとっての都留は好印象であった。

全体としての都留イメージ

今回、多くの人に都留イメージを書いて頂き、ありがとうございました。

さて、今回の都留イメージですが、私たちは、遠くの県や近くの県の人、それに地元の山梨の人。それぞれに様々な背景を持ってこの都留にやって来ています。そのため私たちが、都留に持ったイメージは様々でした。しかし、私たちが共感したことが多かったのも事実です。ここではそのことについて、多かったイメージを、順序を追いながら、まとめたいと思います。

まず、私たちは都留文に合格し下宿、又は通学を決めました。その時に高校の先生の話や、想像等で都留は、

凄まじく田舎だと思ってた人が多かったようです。そして、下宿を決めたりするため等で、いよいよ実際に都留に行くことになりました。そこで私たちの大部分は、あることに気がつきました。富士急行線の高値と本数の少さです。一時間に一本、しかも谷村まで片道450円というのにはショックが大きかったでしょう。そして、次に車中で都留は山が多く水も綺麗な所だと歓心したと思います。しかし、富士山が見れない事に不満を感じる人も多かったはずで、何はともあれ、とうとう谷村に着き町を見学することにしました。まず気がついたのは、道路の狭さで歩きにくさを感じた人も多しはずです。それでも慎重に歩いていると、そこらじゅう文大生と、そのアパートだらけということに気づき都留はやはり学生の町と感じたはずで、次に店に目を向けると岡島やカトー、オリオンを見つけ最低限の店はあることをしります。またコンビニやカラオケや病院、しかもボーリング場やバッテリーセンターや居酒屋、美容院が意外に

揃ってることもしります。しかし、やはり不足してるものも多く、特に他の娯楽施設、服屋、TSUTAYAが無いのはイタかったはずで、そしてついに多くの人が一人暮らしを始め、都留の様々な事がわかってきます。まず、水がかなり安く、しかも旨いこと。現代では考えられないゴミの出しやすさ。以外に高いガス代などです。あとは厳しい気候と虫です。最初は実家に帰りたかった人も多かったみたいです。でも、さらに長い期間住むうちに都留の人優しさ、町のアットホームな雰囲気に触れたり、友達が近くに住んでも知り、今では多くの人が「都留が好きだ。」 「都留をもっと知りたい。」と思っっているようです。以上が都留イメージで多かったものをまとめたものです。

「My First Impressions」編集チーム

